

株式会社ゲームカードジョイコホールディングス
2019年(平成31年)3月期 第2四半期決算説明会

日時 : 2018年11月16日(金) 16:00~16:30
場所 : 大和コンファレンスホール A1
出席者: 代表取締役社長 蒔田 穂高
取締役 柳 漢呉
執行役員 管理本部長 加藤 節郎

当説明会では、『2019年3月期第2四半期の決算状況』と『2019年3月期の着地見込み』について説明いたしました。
以下、主なご質問の紹介です。

Q1. 経営指標の数値に関して、ROEやROA、一人当たりの営業利益を上昇させたいと捉えているのか、一定の数値目標を立てているのか、詳細を伺いたい。

A: 弊社ではスリム化経営を進めている最中、経営指標として最も適していると捉えているのがROE、ROA、一人当たり営業利益であるため、重きを置いておりますが、実績値が前年同期比でいずれも下がっている状況は遺憾に思っている現状でございます。経営指標に特段目標は立てていないものの、前期に対し当期と、なるべく上昇させていきたいと捉えております。

Q2. 売上高の下期は、上期に比べて2割程度減少するものと見込んでいるが、上期と下期で営業政策が変わってくるのか。

A: 上期の業績については、昨年末以降、ホール様は検定機のかげこみ認定や遊技機の入替えに資金を要しており、投資意欲は周辺機器に向いていかない状況下で予算を組んだため、堅い数値を予想しておりました。実際には遊技機メーカーによる新基準の設定付き機種、あるいは6号機機種の保通協への申請が遅れていた影響で、新台が市場に流通せず、ホール様の投資意欲が周辺機器に向いたことから、弊社でも当該投資ニーズを取り込むことが出来ました。下期につきましては、年末に向け、遊技機の新台が出揃う見込みとなっているため、上期のような状況は続かないものと見込んでおります。また、従前であれば年末にホール様の改装や新店オープンの需要があるものの、当期においては全国的に数が少ない状況にあるため堅い数字になっております。

Q3. 前回、消費税増税によるかけこみ需要増加や市場活性化を見込んでいるとの見解だったが、状況を伺いたい。

A：消費税増税に向け、いまだ細かいオペレーションが見えない中、弊社として機械の開発や営業に結びついていないのが現状です。いずれ当該オペレーションが明らかになってくる段階で弊社としてどのような開発が出来るのか、どのような営業が出来るのかという点が課題になっています。従って、消費税増税の特需については下期の着地見込みには盛り込んでおらず、来期以降に動きが見られるのではないかと考えております。

Q4. 管理遊技機の進捗に関しての状況を伺いたい

A：弊社だけでなく、遊技機メーカーを含めての協議を進めている段階にあり、現時点で特段弊社から申し上げられるものはありません。